

不法投棄監視を強化

県が発式 50人パトロールへ

全国ごみ不法投棄監視ウー（五日）に合わせ、県の出発式（五月三十日―六月一）式が三十日、県庁であり、

パトカーの先導で廃棄物監視・

指導車両七台が県内各地に向かった。上空から

監視するスカイパトロールや隣県との共同路上検査も実施していく。

環境省中部地方環境事務所や

環境森林部、県警本部生活安

全部、社団法人県産業廃棄物協

会などから約五十人が参加。今

回新たに、地域で不法投棄監視の自主活動をし

ている三団体に「不法投棄監視パトロール実施中」の文字が入った車両用ステッカーと腕章を配布した。

江畑賢治副知事は、「不法投棄は平成十五年度に九十二件あったが、年々減り、昨年度は十八件まで減った。関係機関と連携した監視や情報提供の成果が表れている」と述べ、「早期の発見が重要。県警や市町

との取り組みを強化したい」とあいさつした。

スカイパトロールは、全

容が把握しにくい不法投棄現場を防災ヘリで上空から

監視する。産業廃棄物運搬車両の共同路上検査は、四

県でつくる日本まんなか共和国の連携事業として滋賀

県と取り組む。



ごみ不法投棄監視の出発報告を受ける江畑副知事（手前右） 県庁で

の自主活動をし